



神戸大学における評価を中心としたIR活動

神戸大学 企画評価室
准教授 浅野 茂

平成25年8月22日



1. 神戸大学の概要

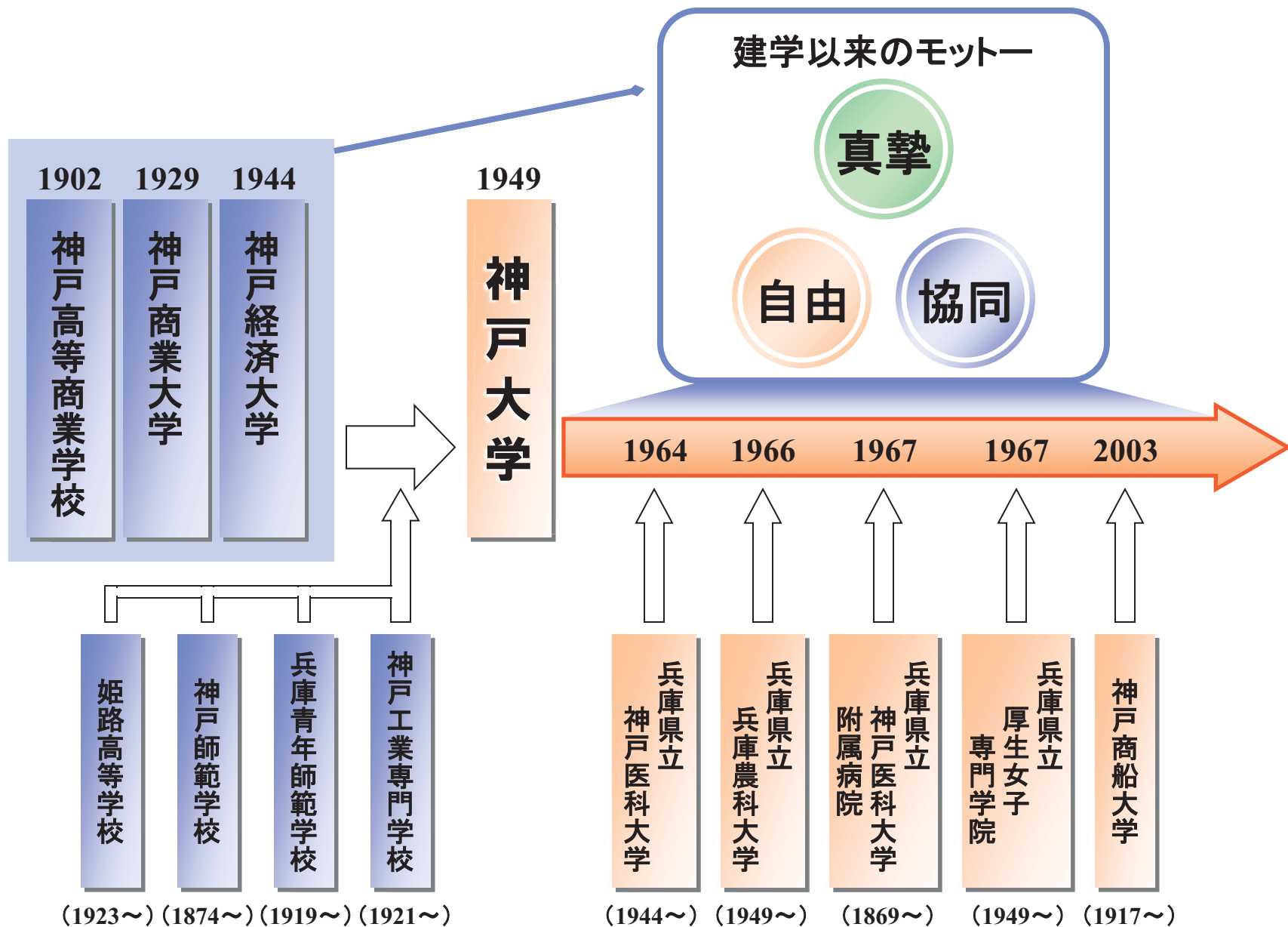
2. 神戸大学における評価とIR

3. 具体的な取り組み

4. まとめ



1. 神戸大学の概要～沿革～



1. 神戸大学の概要～神戸大学の使命～

神戸大学の使命

神戸大学は、
開放的で国際性に富む固有の文化の下、
「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、
人類社会に貢献するため、
普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、
人間性豊かな指導的人材を育成します。



神戸大学ビジョン2015

Toward Global Excellence in Research and Education

神戸大学は、開放的で国際性に富む固有の文化の下、構成員一人ひとりが「真摯・自由・協同」の精神を共有しつつ、更なる飛躍に向けて、2015年までに「グローバル・エクセレンス」の実現を目指します。

世界トップクラスの研究機関に

既存の学術領域、その連携・融合が生み出す新たな学術領域における本学のコア研究により、世界的に卓越した成果を恒常的に創出し、世界トップクラスの評価を得る研究機関になります。

世界トップクラスの教育機関に

本学の教育憲章に則り、卓越した独自の教育プログラムを通じて、高い見識とグローバルな視野を有する人間性豊かな指導的人材を育成し、世界トップクラスの評価を得る教育機関になります。

卓越した社会貢献を

世界的に卓越した研究成果の普及、多様なフィールドで活躍する指導的人材の育成、高度先進医療の推進を通じて、世界と地域から高い評価を得る貢献をします。

卓越した大学経営を

ビジョンの達成を通じて、構成員一人ひとりが自己実現を確信するとともに、ステークホルダーからの期待に応える大学経営をします。

1. 神戸大学の概要～組織と構成員～



	在籍者数	教職員数
学部 → 11 文学部、国際文化学部、発達科学部、法学部、経済学部、経営学部、理学部、医学部、工学部、農学部、海事科学部	11,869	3,498 教員: 1,537 職員: 1,835 (看護師含む) 教諭: 126
大学院 → 14 人文学研究科、国際文化学研究科、人間発達環境学研究科、法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、理学研究科、医学研究科、保健学研究科、工学研究科、システム情報学研究科、農学研究科、海事科学研究科、国際協力研究科	4,363	
専門職大学院 → 2 法学研究科実務法律専攻(法科大学院)、経営学研究科現代経営学専攻(社会人MBA)	349	
その他 附置研究所、附属病院、自然科学系先端融合研究環、機構、学内共同教育研究施設等	計16,581	
附属学校部 附属幼稚園、附属住吉小学校、附属明石小学校、附属小学校、附属中等教育学校、附属特別支援学校	1,575	

国立大学法人の中でも学部数は2番目に多く、学部学生数も5指に入る規模

(組織は平成25年4月1日、員数は平成25年5月1日現在)





- IRについては、様々な見解が述べられているが、最も広く受けられている定義はSaupe(1990)である。(Volkwein, 2008)
- Saupe(1990)によると、IRは「機関の計画立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われる調査研究」と定義される。
- 柳浦(2009)によると、IRの仕事はデータを集め、分析・研究し、文書にまとめ、首脳陣に提言を行い、そしてその提言を実行に移すというサイクルに集約される。IRの業務は、このデータ収集、分析、提言、政策実行のフィードバックシステムをいかに効率化し、スピードアップしていくかに尽きる。



2. 神戸大学における評価とIR～室の設置と改組・再編～

平成16年4月 「情報・評価室」
(Office of Institutional Research
and Assessment) 設置

- 本学の教育研究活動等に関する情報の収集・分析及び評価システムの研究開発を行い、評価体制の整備を図ることにより本学の使命の実現に寄与することを目的とする。

平成17年4月 「経営評価室」及び
「情報管理室」に改組

- 自己点検・評価の効率的実施に向けた全学的体制整備のために改組。
- 「経営評価室」は、本学の経営・教育研究活動等の評価に関する情報の収集・分析及び評価システムの研究開発を行い、評価体制の整備を図ることにより本学の経営及び使命の実現に寄与することを目的とする。

平成22年4月 「企画室」及び
「経営評価室」を
「企画評価室」に再編

- 企画立案業務及び評価業務の一体的かつ効率的実施に向けた再編。
- 「企画評価室」は、本学の将来の在り方についての企画立案を行うとともに、本学の経営・教育研究活動等の評価に関する情報の収集・分析及び評価システムの研究開発を行うことを目的とする。



「企画評価室」の業務

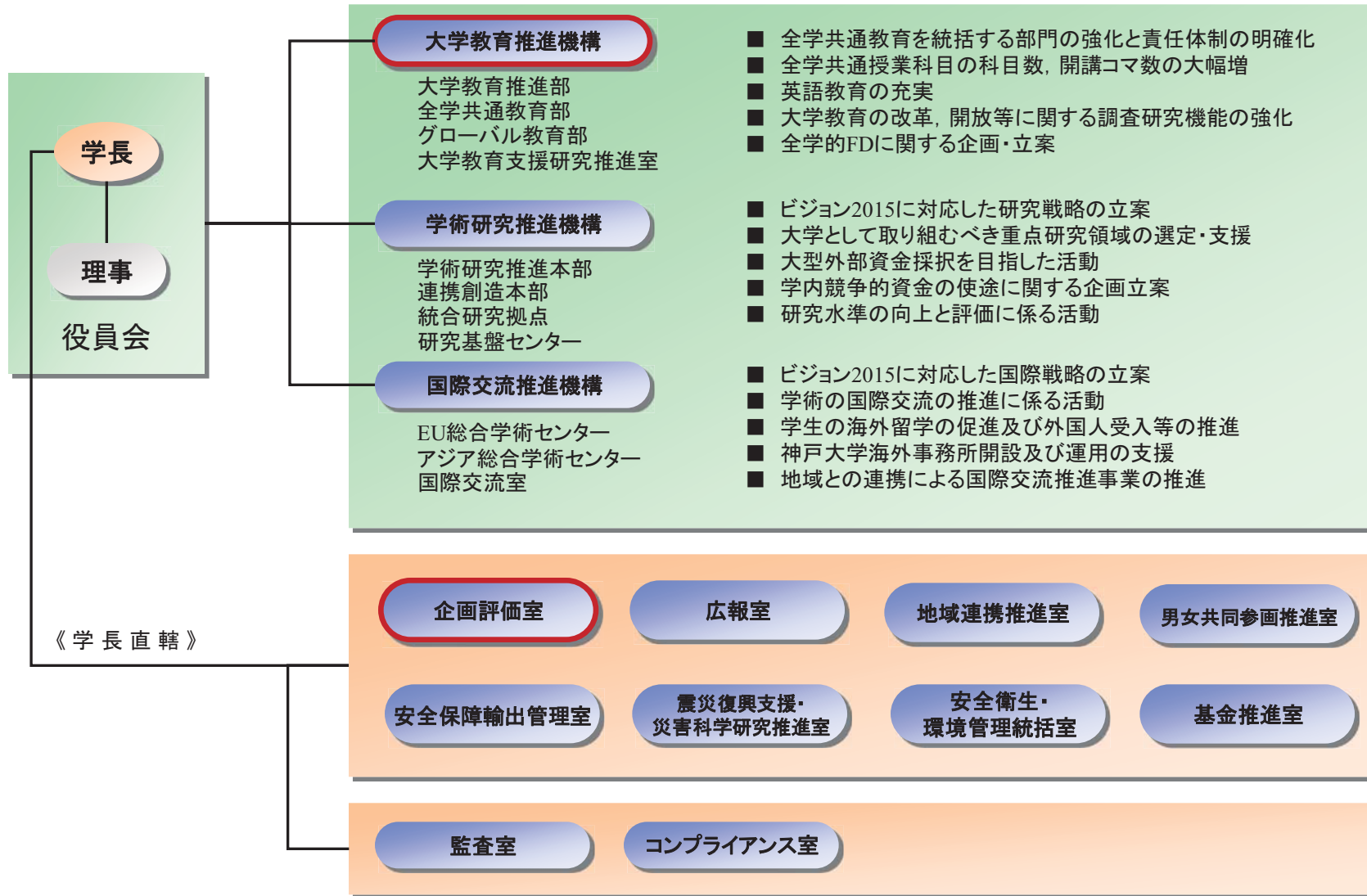
- (1) 本学の**将来ビジョン**に関すること。
- (2) 本学の**経営に係る基本的事項の企画、調査及び立案**に関すること。
- (3) 本学の**経営・教育研究活動等**の評価に関すること。
- (4) 本学の**経営・教育研究活動等**の評価に係る**調査研究及び情報提供**に関すること。
- (5) 本学の**経営・教育研究活動等**の評価に寄与する**データベースの構築**に関すること。
- (6) その他企画及び大学評価に関すること。

「企画評価グループ」の業務

- (1) 大学の**長期計画**に係る制度等の企画立案及び連絡調整に関すること。
- (2) **中期目標及び中期計画**に関すること。
- (3) **年度計画**に関すること。
- (4) 大学の**教育研究活動等**の自己点検・評価に関すること。
- (5) **国立大学法人評価委員会及び認証評価機関**による大学評価に関すること。
- (6) 大学の**教育研究活動等**の外部評価に関すること。
- (7) 大学の**組織、管理運営、大学の評価システム等**に係る調査並びに企画立案に関すること。
- (8) 大学改革及び大学評価に係る**情報の収集及び分析**に関すること。
- (9) **学部、研究科、学科等**の設置及び改廃に関すること。
- (10) **講座及び学科目等**に関すること。
- (11) **看護師学校等**の指定の申請に関すること。
- (12) **企画評価室**に関すること。
- (13) **所掌事務**に係る調査統計及び諸報告に関すること。

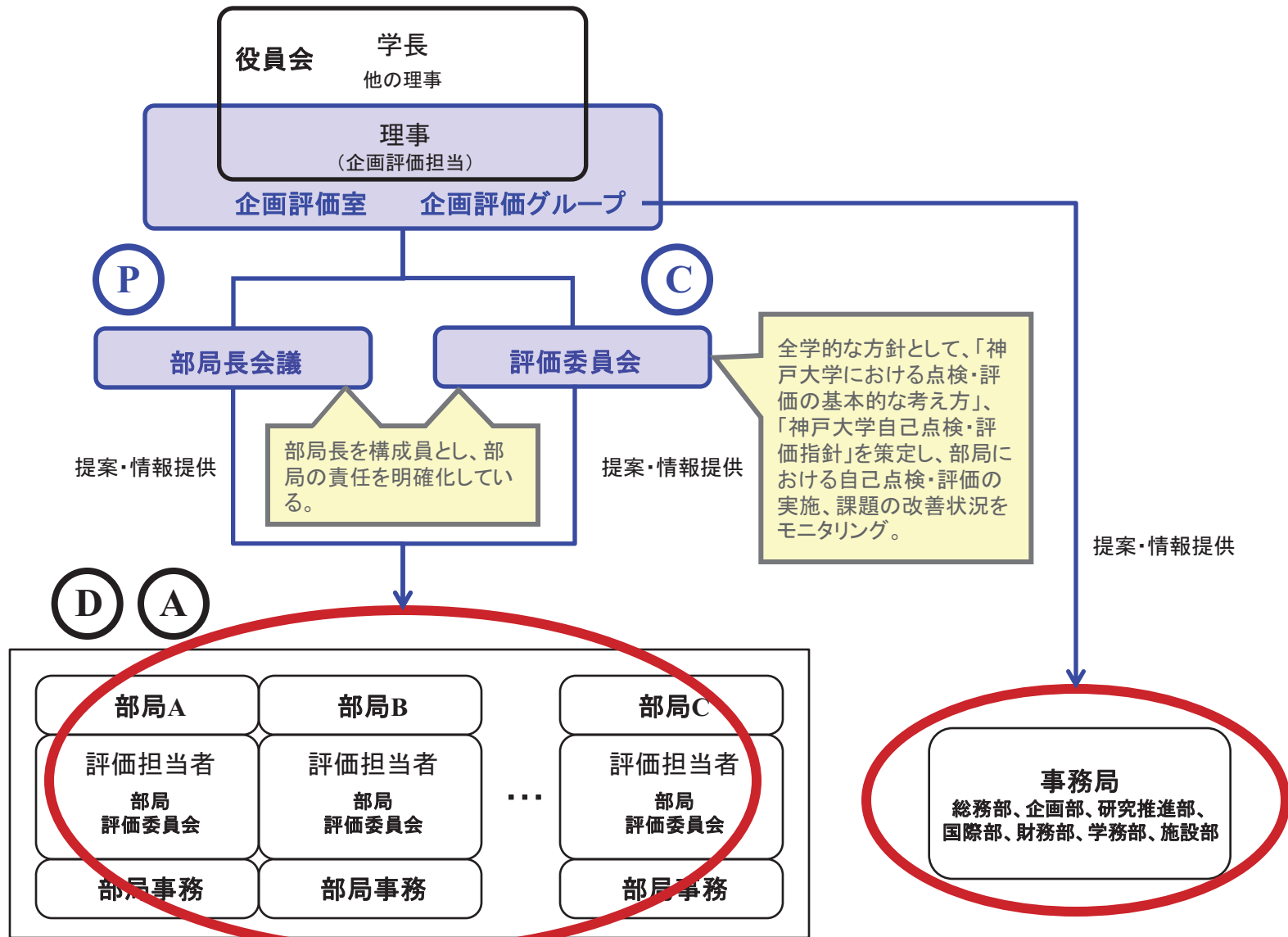
- ・室長(理事・副学長)
- ・専任教員 1名(准教授)
※学長裁量枠から配置
- ・兼務教員 3名(教授)
※情報系教員がKUID担当
- ・事務補佐員 1名
- ・企画評価グループの事務職員
4名も加わった教職協働体制をとっている。

2. 神戸大学における評価とIR～企画評価室の位置づけ～



(平成25年7月1日現在)

2. 神戸大学における評価とIR～全学の評価体制～



2. 神戸大学における評価とIR～全学の評価指針等～



- 平成16年度 「神戸大学における点検・評価の基本的な考え方」を策定

点検・評価の理念

- (1) 理念・使命に基づいた点検・評価
- (2) 外部の視点を取り入れた点検・評価
- (3) 証拠に基づいた点検・評価
- (4) 合理的、効率的な点検・評価
- (5) 自らも改善する点検・評価

フレームワークに関する
全学的合意形成

- 平成19年度 「神戸大学自己点検・評価指針」を策定

点検・評価の単位

本学における点検・評価は、以下の単位で実施するものとする。

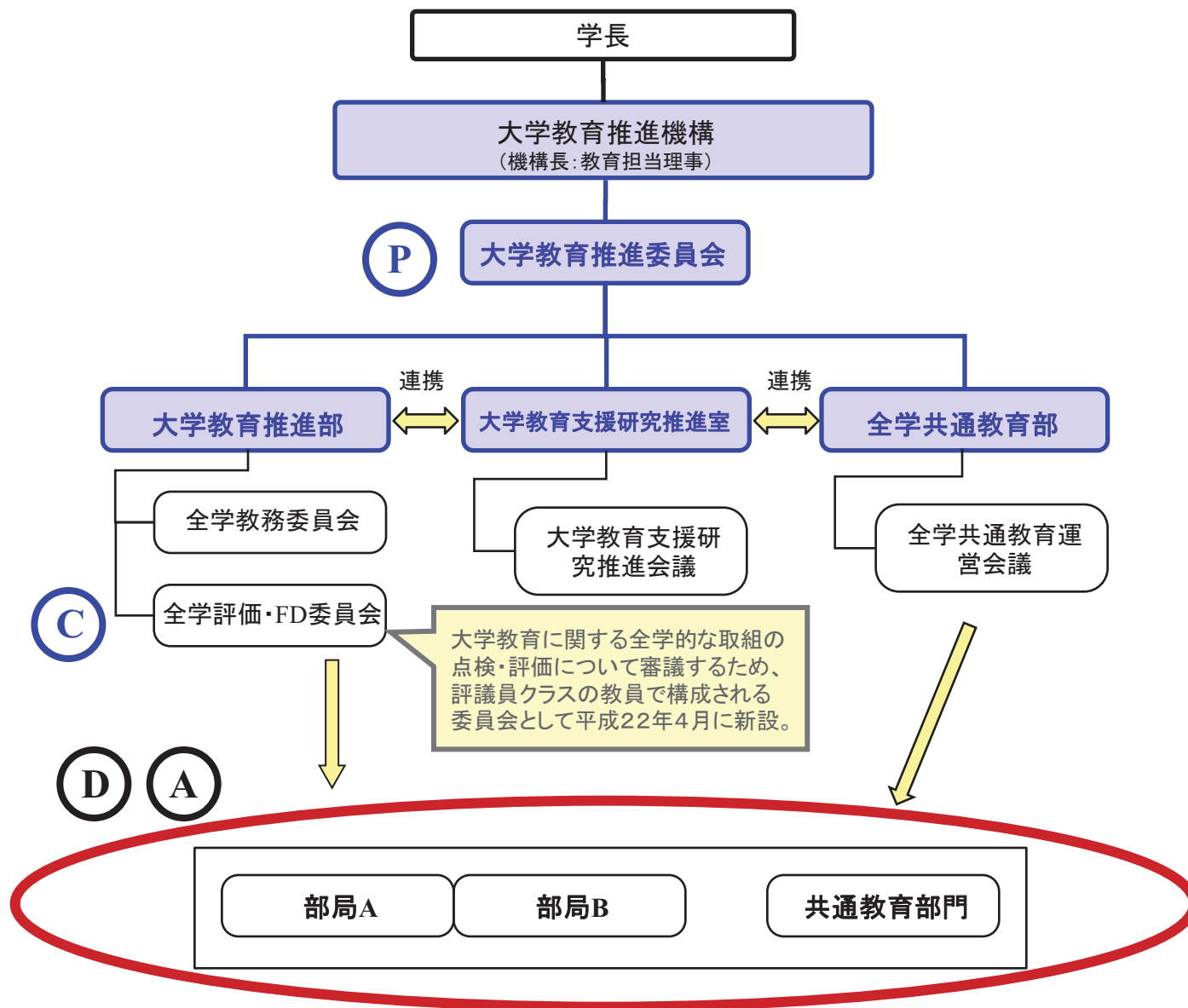
- (1) 各部局等の長 (大規模な部局にあつては学科や専攻の長など) による所属教員の教育研究活動等の年次点検 (「教員点検」)
- (2) 各部局等の長 による所属教員の教育研究活動等の評価 (「教員評価」)
- (3) 各部局等の長 による「組織点検・評価」
- (4) 神戸大学評価委員会による各部局等の「教員点検・評価」及び「組織点検・評価」に対する点検・評価 (「メタ点検・評価」)
- (5) 神戸大学評価委員会による大学の総括的 point 検・評価

学問分野の多様性に配慮した
評価体制の整備

部局の独自性・主体性
を尊重



2. 神戸大学における評価とIR～教育の質保証に向けた体制強化～



2. 神戸大学における評価とIR～教育の質向上のための評価指標～



部局における教育の現状を把握するため、大学機関別認証評価の評価基準を参考に、平成22年3月に策定

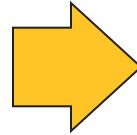
- 教育課程の体系的に編成する仕組み
 - カリキュラムマップ
 - 単位の実質化に配慮したシラバス
 - 単位の実質化に配慮した成績評価基準

- 教育の実践及び成果に係る組織的な検証
 - 授業評価、卒業・修了時、卒業生や就職先アンケート、学生生活実態調査等に係る組織的な検証

- 教育に係る点検・評価及びその結果に基づく改善・向上の実施状況
 - 評価結果に基づく教育課程の見直し等
 - FDの組織的推進と改善への反映
 - TA等教育支援者や補助者の教育活動向上



国立大学の法人化



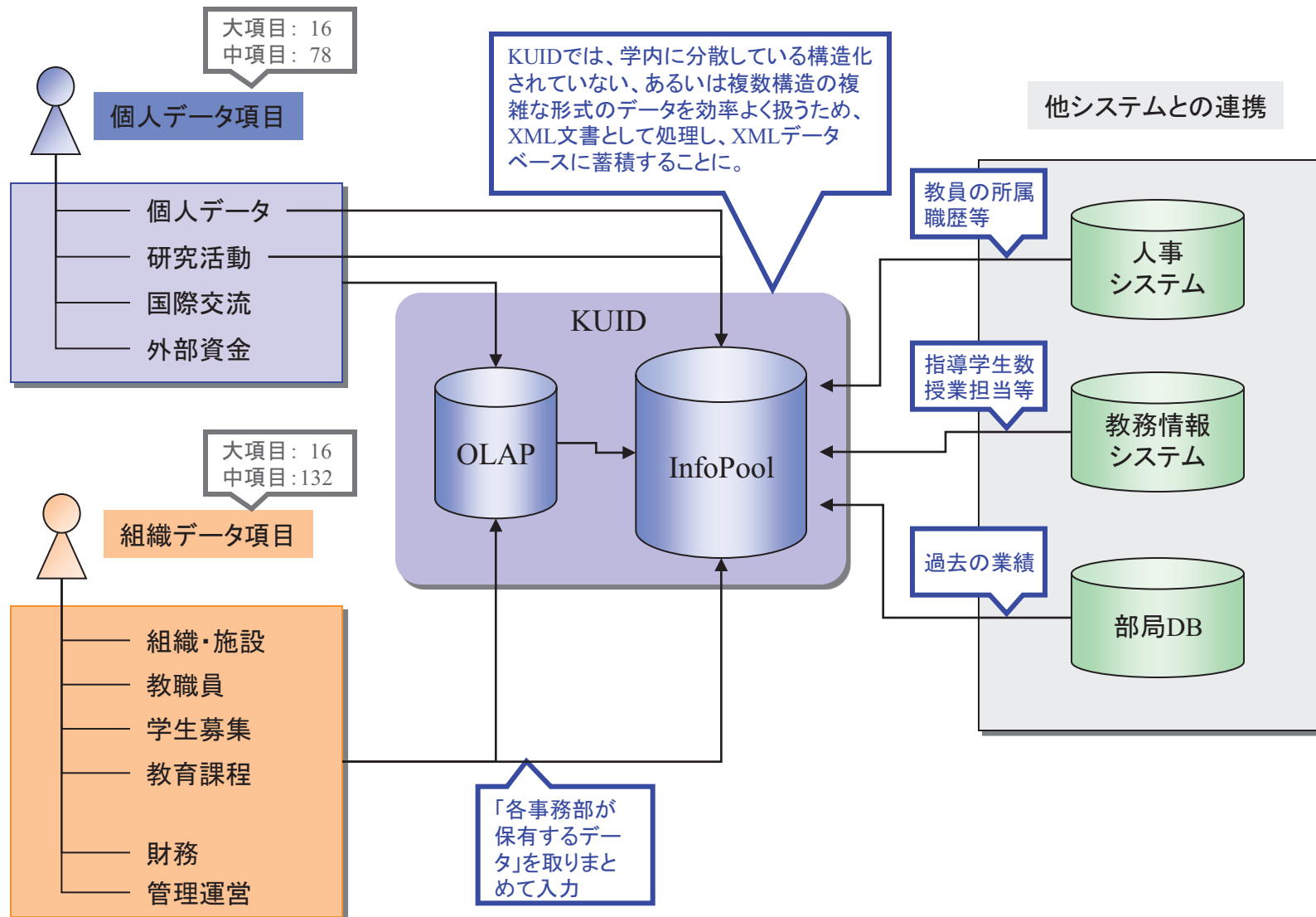
大学経営、各種の評価、大学広報など、今後益々増大する大学内外からの大学情報ニーズに機動的、効率的に対応し、神戸大学の教育研究活動を総合的、客観的に把握する必要

具体的には、、、

- (1) 全学に係る評価への対応
国立大学法人評価委員会の評価, 認証評価機関による評価
- (2) 部局等における評価への対応
各専門職大学院認証評価, 部局における評価事業
- (3) 情報公開・産学連携への対応
HPによる研究者紹介, シーズデータベース, ReaDへのデータ提供
- (4) 部局・研究者個人DB等への対応
業績書の作成, 部局/研究室・個人DB等との連携
- (5) 大学経営のための利用
現状分析, 戦略策定

3. 具体的な取り組み～大学情報データベースの構築・運用(2/6)～

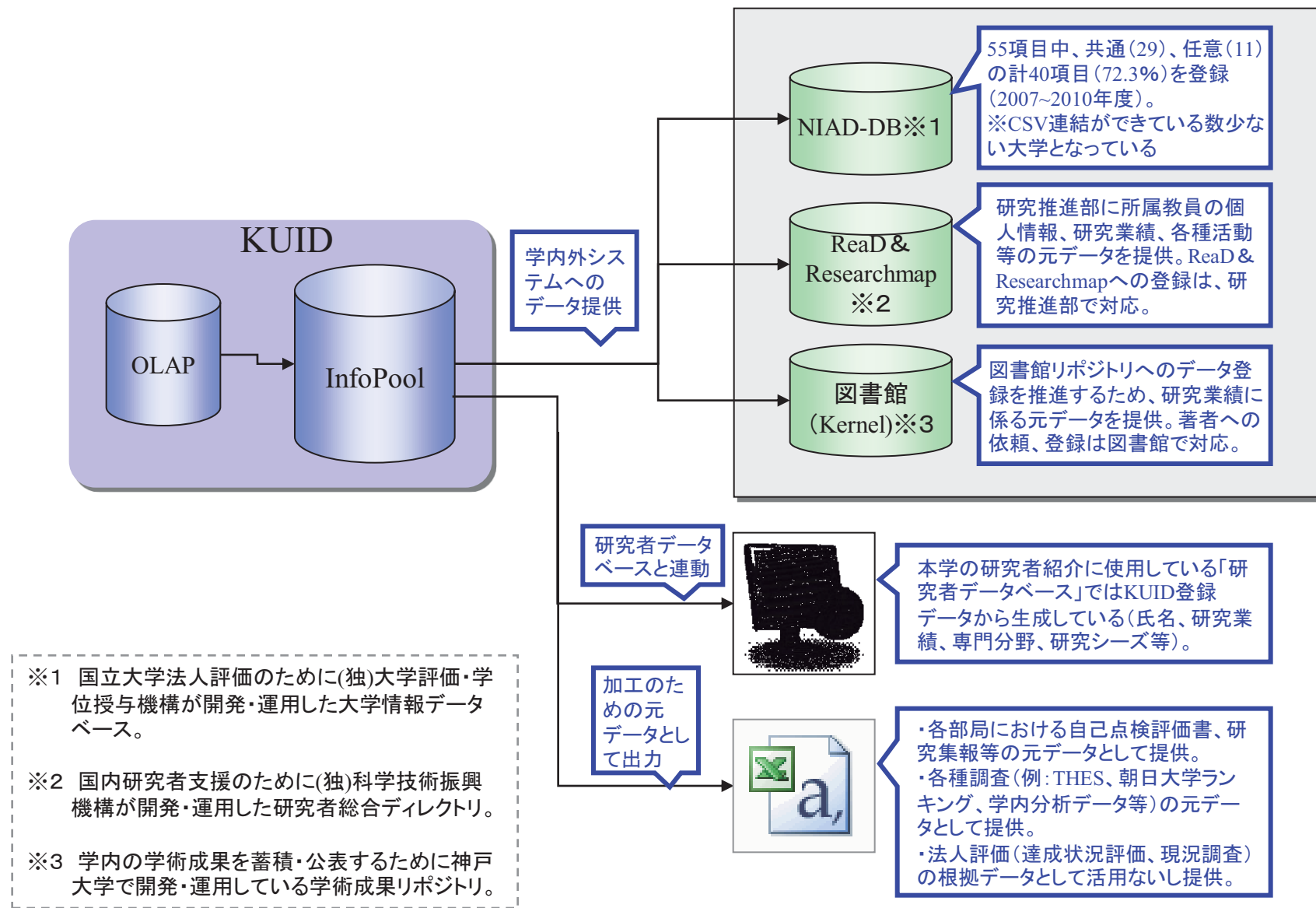
- 平成16年4月、神戸大学情報データベース(KUID)の開発に着手。全学の評価委員会にて個人データ・組織データ項目等の選定を行い、試行等を経て、平成18年4月から本稼働。



3. 具体的な取り組み～大学情報データベースの構築・運用(3/6)～

データ項目	入力情報の特性			
	データ元	範囲	入力状況	
個人データ	個人属性	人事システム ※一部、教員の確認を要する	教員(学長、理事を含む)	3,341名(H25.5月1日現在) ※退職、転出者含む
	個人活動	教員が年度ごとに作成	教育、研究、診療、社会貢献、 管理運営、国際交流活動等	3,341名(H25.5月1日現在) ※退職、転出者含む
	研究活動 ・論文 ・著書 ・研究発表 ・受賞	教員が研究業績ごとに入力	左記研究活動に加え、芸術作品、 共同研究(大学把握分以外)、 特許・発明(大学帰属分以外)、 教育・研究等支援活動	項目 件数(H25.8月現在) ・論文 53,415 ・著書 7,948 ・研究発表 48,899 ・受賞 1,152
組織データ	教職員	人事システム	教職員に係る各種集計値	2006～2012年度
	学生募集	教務システム+事務局入力	学生定員、AP、入試集計、 オープンキャンパス実施状況等	2006～2012年度
	教育課程	教務システム+事務局入力	カリキュラム、授業科目、 他大学との単位互換集計等	2005～2012年度
	教育活動	教務システム+事務局入力	単位修得集計、学位授与集計、 就職者集計、各種アンケート集計	2005～2012年度
	学生支援	事務局入力	入学・授業料、奨学金採用状況、 課外活動、各種相談窓口集計	2005～2012年度
	外部資金	事務局入力	共同・受託研究、科研費、寄付金、 公的機関からの研究助成等	2006～2011年度
	管理運営	事務局入力	役員会、全学・部局・学科委員会、 リスク管理、監査業務	2006～2011年度

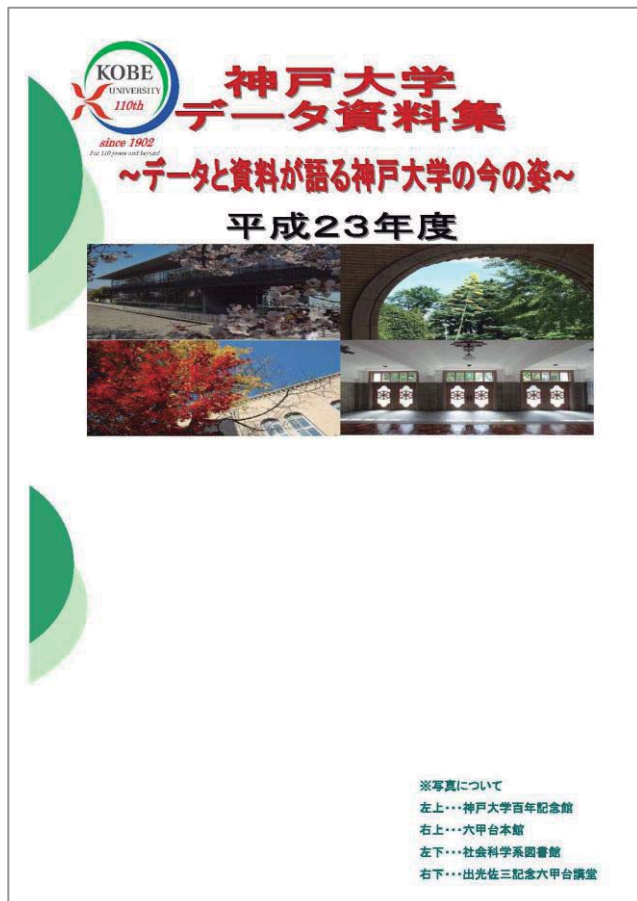
3. 具体的な取り組み～大学情報データベースの構築・運用(4/6)～



3. 具体的な取り組み～大学情報データベースの構築・運用(5/6)～

現状把握と情報公開支援

・2011年度から、KUID及び公開データ等を収集し、大学の状況を示すデータ集を作成することで、データに基づいた議論促進を図るとともに、学外に対しても積極的に公開。

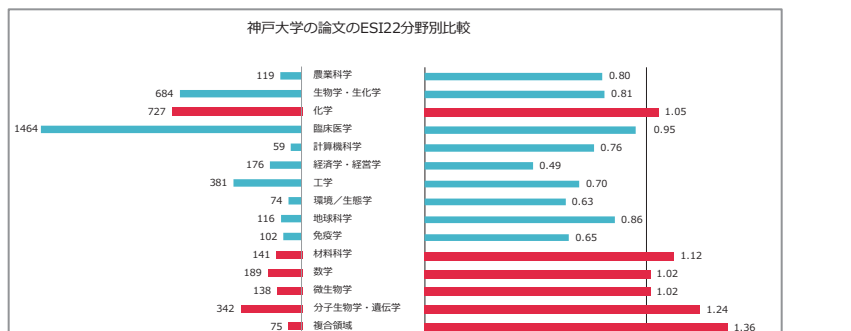


公開URL：<http://www.kobe-u.ac.jp/info/outline/datashiryoushuu/index.html>

3. 具体的な取り組み～大学情報データベースの構築・運用(6/6)～

戦略計画の策定支援

・2012年10月から、ポスト神戸大学ビジョン2015の策定に向けた執行部議論に着手。その議論を促進するため、KUID及び公開データ等を活用してエビデンスデータを作成。



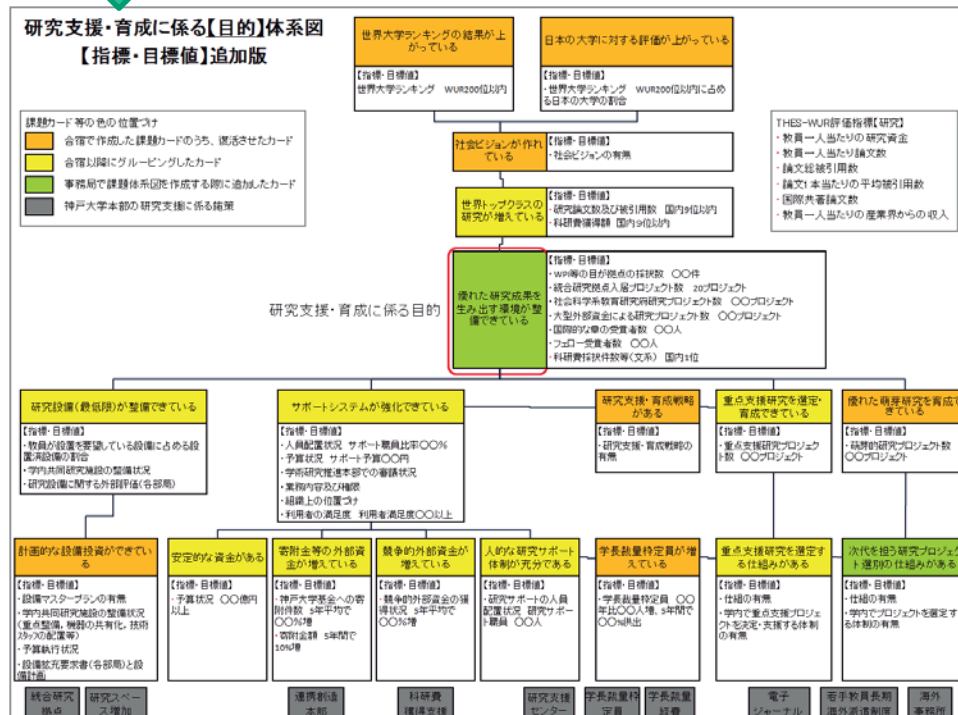
【科研費】					
経済学		法学		政治学	
大学名	件数	大学名	件数	大学名	件数
神戸大学	490	東京大学	251	東京大学	199
東京大学	427	神戸大学	185	神戸大学	110
大阪大学	363	大阪大学	170	大阪大学	76
京都大学	307	東北大学	147	京都大学	66
東北大学	259	京都大学	135	東北大学	19

出典: KAKEN 2007-2012

【教職員・学生数等】

大学名	Su/Tt比	S/Te比	US/GS比
東京大学	7.5	0.16	0.21
京都大学	6.9	0.13	0.16
名古屋大学	7.7	0.11	0.14
神戸大学	11.3	0.07	0.09

出典: 大学評価・学位授与機構 大学基本情報2012



- ✓ (1) 全学に係る評価への対応
国立大学法人評価委員会の評価, 認証評価機関による評価
- ✓ (2) 部局等における評価への対応
各専門職大学院認証評価, 部局における評価事業
- ✓ (3) 情報公開・産学連携への対応
HPによる研究者紹介, シーズデータベース, ReaDへのデータ提供
- ✓ (4) 部局・研究者個人DB等への対応
業績書の作成, 部局/研究室・個人DB等との連携
- (5) 大学経営のための利用
現状分析, 戦略策定

5つの目的のうち4つまで達成



特に「(5)大学経営のための利用」については、更なる改善の余地がある。



なぜ「有効に機能している」と感じないのか



- 想定していた使用方法について、“部分的”にしか活用出来ていない
- 全体的に、利用が進んでいるのは「個人データ」の活用であって、「組織データ」の活用が進んでいない。
- その“部分的”な使用が可能になるまでの作業が非常に非効率

なぜ「“部分的”な活用」で止まっているのか



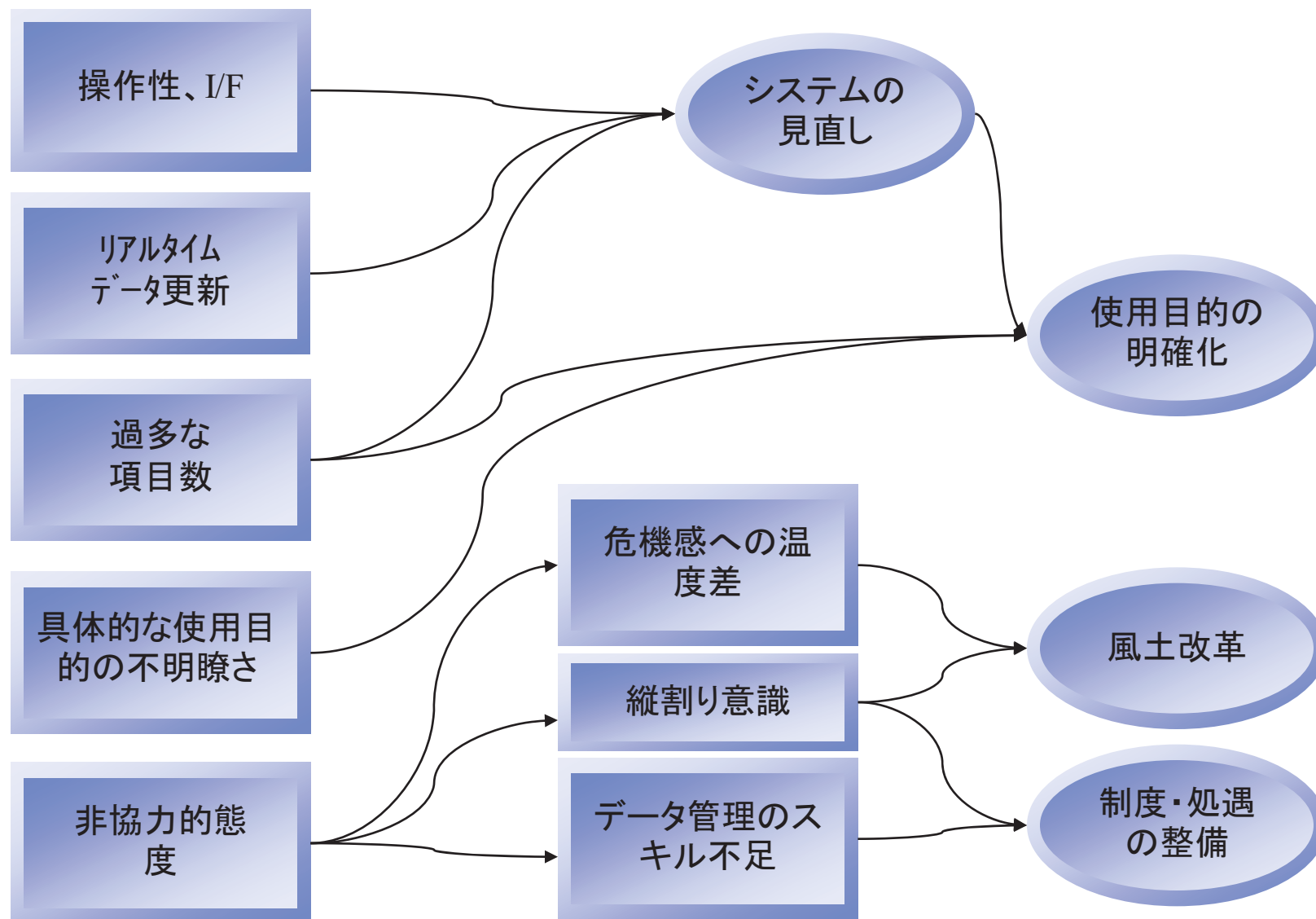
- データ収集に要する時間が多大
- それぞれのレベルでどのようなデータニーズがあるのかが不明確

なぜ「低効率」な上に「信頼性」が低いのか



- 個人データと組織データで、それぞれ別個の理由
- 物理的要因、制度的要因、心理的要因が絡み合っている





3. 具体的な取り組み～教育の質保証に向けた取組(1/4)～

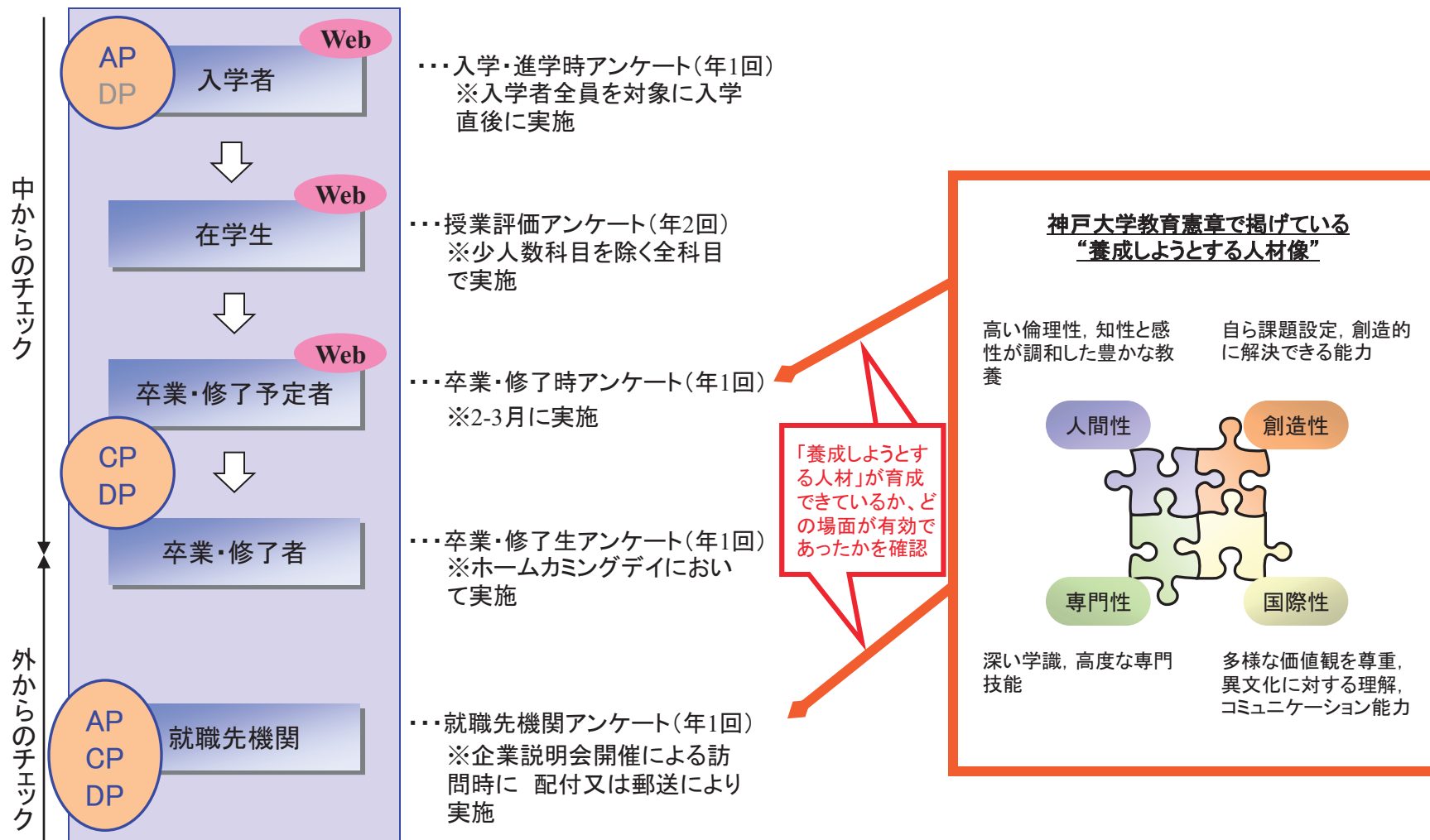
教育の質向上のための評価指標を自己点検・評価する際のチェックリストとして、ルーブリックの作成

評価指標	D	C	B	A	S
教育目標・学習目標	教育目標・学習目標・学習成果が設定されていない。	教育目標は設定されているが、学習目標・学習成果は設定されていない。 ・また、公表もされていない。	教育目標・学習目標・学習成果が設定されているが、公表されていない。	教育目標・学習目標・学習成果が設定され、公表されている。	学習成果が行動目標として設定され、ウェブで公表されているのみならずシラバス等にも記されている。
教育課程					
組織的検証					
教育方法・学修時間					

- ・教育の質向上の評価指標のみでは、部局または自己点検・評価担当者ごとに、評定にバラつきが見られるため、状況判断が困難。
- ・評定のバラつきを是正するため、自己点検・評価に用いるルーブリック(案)を教育評価・FDWGにおいて検討中。今年度中には、全学委員会で審議のうえ、部局での自己点検・評価に活用。

3. 具体的な取り組み～教育の質保証に向けた取組(2/4)～

教育の質向上のための多層的アンケートの設計と実施



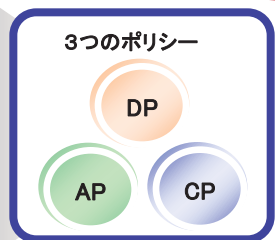
3. 具体的な取り組み～教育の質保証に向けた取組(3/4)～

**神戸大学教育憲章で掲げている
“養成しようとする人材像”**

高い倫理性、知性と感性が調和した豊かな教養
自ら課題設定、創造的に解決できる能力

人間性 創造性
専門性 国際性

深い学識、高度な専門技能
多様な価値観を尊重、異文化に対する理解、コミュニケーション能力



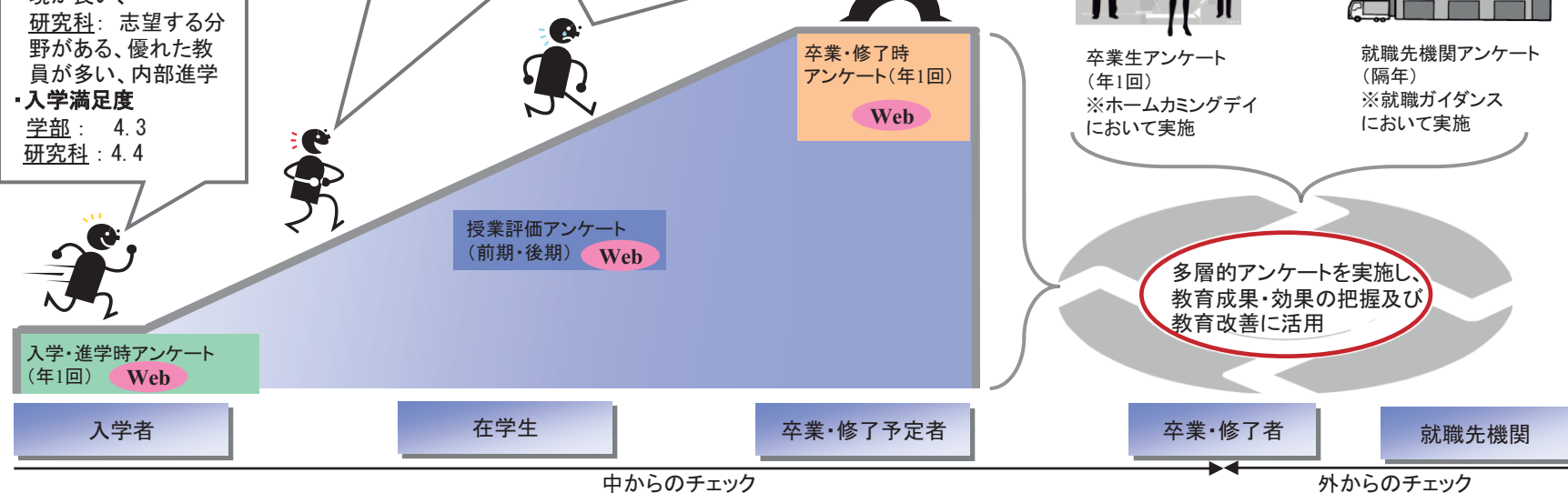
「養成しようとする人材」が育成できているか、どの場面が有効であったかを確認

獲得能力	H23卒業・修了生		卒業生	就職先
	学部	研究科		
幅広い教養/深い学識	3.9	4.3	20.8%	4.00
専門知識・技能	3.9	4.1	24.1%	3.9
英語等の外国語能力	2.8	3.2	-	3.4
総合的な見地	4.0	4.1	14.7%	4.1
高い倫理観	3.6	3.7	-	4.0
課題設定・解決能力	4.0	4.2	13.1%	4.0
コミュニケーション	4.0	4.0	11.9%	4.1
価値観・異文化理解	3.8	3.9	-	3.7
プレゼンテーション	3.7	4.1	3.4%	3.7
情報処理	3.6	4.0	3.4%	3.4

**H24年度入学
・受験(進学)理由**
学部：国立大学だから、志望する分野がある、大学の雰囲気・環境が良い、
研究科：志望する分野がある、優れた教員が多い、内部進学

・入学満足度
学部：4.3
研究科：4.4

項目	H23前期		H23後期	
	学部	研究科	学部	研究科
授業理解度	3.8	4.1	3.8	4.3
総合判断	4.1	4.4	4.1	4.6



3. 具体的な取り組み～教育の質保証に向けた取組(4/4)～

【取り組みの成果】

- 全学共通項目によるアンケートを通じて全学部・研究科の状況を俯瞰。
- 質問項目の選定、実施方法等の検討を一体的に行い、内部の課題把握のみならず各種評価において教育成果を示す根拠資料として活用。
- 各種アンケートの評価結果は全般的に肯定的。在学中に習得した知識・スキルまたは態度についても、卒業・修了直後の学生、卒業・修了から一定年度を経た学生、さらには採用された機関等での評価が一致していることを確認。
- 自由記述に係る質問項目のテキスト分析を行い、定量的な数値と定性的な情報を併せて提示。

【改善例】

- 教育環境・設備、学内アメニティ等に対する否定的な評価結果を受け、平成19年度以降の耐震補強工事と併せてスペースの有効活用のための再配分を行い、平成21年度以降のアンケートにおいて、統計的に有意に上昇していることを確認。
- 在学中にもっと身につけておくべき能力として「英語等の外国語能力」が一貫して多くの学生に選択されていたことを受け、その対策を検討。平成24年度からは大学負担で各学部において英語外部試験(TOEIC/TOEFL)の受験を促進。

【課題】

- 回答率の向上、及び統計分析の高度化に向けた取組
- 学習成果の多様なアセスメント手法の開発と実践
- 「評価のため」から「教育改善のため」へのマインドセット

4. まとめ～評価からIRへの転換(1/5)～

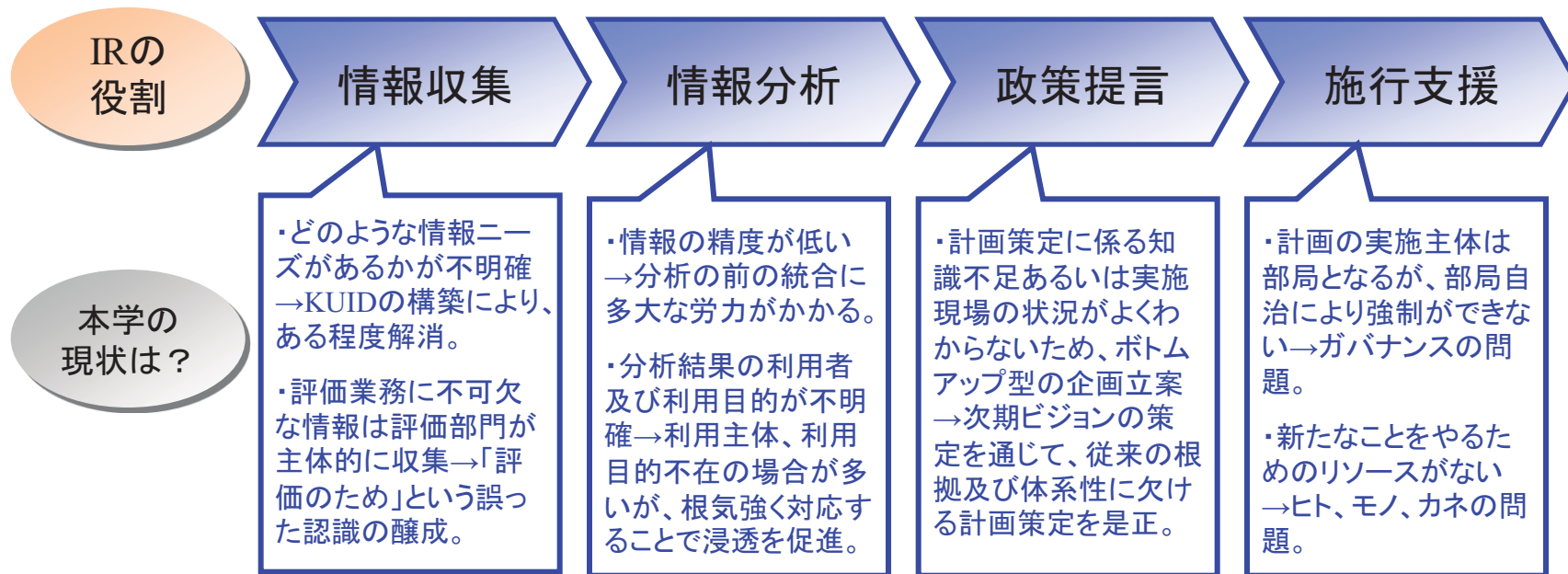


➤ IRについては、一般的に「諸活動全般の情報を集めて客観的に分析し、組織の企画・政策策定・意思決定を支援する」と理解されているが、的確な日本語訳が存在しない現状からすると、必ずしもその本質が理解されているとは言い難い。また、歴史や人材の層の厚さを見ても、相当の乖離がある。したがって、アメリカやカナダ等の多くの大学でIR部門が設置され、効果的な大学運営を実現しているからといって、そのシステムを日本でそのまま導入しても成功するとは限らない。

- IR活動を展開していくうえで、大きな障害要因のひとつに学内情報の入手に係る諸困難がある。効果的な分析等に基づいた提言を行うには、一定の精度を有する情報収集が不可欠となるが、学内に存在しない、あるいは存在していてもその利用が制限される場合がある。そのため、収集のために多大な労力と時間が要される。
- 評価部門は、業務の特性上、必然的に学内の種々の情報(定量及び定性的な情報)を収集することができる。評価の過程で収集する情報を単なる評価書作成のための情報として捉えるのではなく、大学の実状や課題を捉えるための情報として位置づけることで、IR活動定着に向けた突破口を見出すことができるかもしれない。
- 評価・IR活動を継続的かつ効果的に推進していくうえで、「責任ある体制の構築」と「大学としての方針」が不可欠となってくる。IRを定着させる際の必要条件といえるかもしれない。



4. まとめ～評価からIRへの転換(2/5)～



- ・IR部門を構築するというよりは、PDCAサイクルを確実に回すための体制面での整備(同一理事が企画評価を担当し室長を兼務、企画評価室及び企画評価グループの再編)を重視している。
- ・室の業務として、引き続きKUIDを管理運用していくことから、情報収集が重要業務となる。さらに、新たに加わった企画立案業務を遂行しつつ、教学面では大学教育推進機構、研究面では学術研究推進機構と連携しながら情報分析及び政策提言を行うことで、結果的にIR業務を推進していくことになる。



4. まとめ～評価からIRへの転換(3/5)～

教育情報の公表

- 学校教育法施行規則の一部改正により平成23年4月1日から以下の9項目の公表が義務化。
 - ・大学の教育研究上の目的
 - ・教育研究上の基本組織
 - ・教員組織、教員数並びに各教員が有する学位及び業績
 - ・AP、入学者数、収容定員、学生数、卒業・修了者数等
 - ・CP、授業科目、授業方法及び内容並びに年間の授業計画
 - ・DP、学修の成果に係る評価及び卒業・修了の認定基準
 - ・校地、校舎等の施設及び設備その他の教育研究環境
 - ・授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
 - ・学生の修学、進路選択等に係る支援
- 国際的な活動を重視する大学については、別途、努力目標とされる情報公表のガイドラインに沿って公表を促進。
- 教育情報の活用と公表を促進するための場の整備として、データベースを用いた教育情報の活用・公表のための共通的な仕組みを平成26年度までに構築。
→大学ポートレート

政策のための科学

- 競争的資金制度を中心として、研究開発管理に係る一連のプロセス(応募受付→審査→採択→採択課題管理→成果報告等)をオンライン化し、研究費の配分を支援する府省横断的なシステムを開発し、平成20年度に運用開始。 →e-Rad
- 研究者にとって快適な情報発信・情報流通基盤を確立するため、ReaD及びResearchmapを平成23年11月に統合。 →ReaD&Researchmap
 - ※e-Radは、平成25年1月に大幅な仕様変更がなされる予定。その一環としてReaD&Researchmapとの連携機能を強化。
- 博士課程修了者の追跡システム・高度人材データベースを平成26年度までに構築・運用。
→博士人材データベース

大学改革実行プラン

- 国立大学改革の新体制構築、機能強化に向けた改革の加速化→平成25年央までに、大学のごとのミッションを再定義し、改革の工程を確定。
→大学・学部の設置目的を明確化し、公的教育機関としての存在意義を「見える化」
※大学情報の公表の徹底が不可欠 →大学ポートレート+上記の各種DB

4. まとめ～評価からIRへの転換(4/5)～

国立大学の機能強化—国民への約束— 【神戸大学の「これまで」と「これから」】

【研究】

▶先端研究の推進と成果の発信

これまで	<ul style="list-style-type: none"> 「先端ビジネスシステムの研究開発教育拠点」など21世紀COEプログラム7件の採択 「統合的膜生物学の国際教育研究拠点」などグローバルCOE 3件の採択 「サービスイノベーション研究の体系化と成果普及事業」による「学理と実際の調和」の実現
これから	<ul style="list-style-type: none"> 「統合研究拠点」による「先端膜工学研究拠点」や「バイオプロダクション次世代農工連携拠点」など8つのプロジェクトの推進★ 社会科学系部局の有機的連携を促す「社会科学系教育研究学府」新設★ 理化学研究所計算科学研究機構との連携推進★ 地域の特性を活かした先端研究の推進(SPring-8、SACLA、神戸医療産業都市構想、関西スーパー総合特区)★

▶海外オフィス等を活用した国際交流の促進

これまで	<ul style="list-style-type: none"> 若手教員長期海外派遣制度の創設／中国事務所、ブリュッセルオフィス開設／海外同窓会の発足(世界10カ国)
これから	<ul style="list-style-type: none"> 日・EU研究のネットワーク構築のための「EU総合学術センター」による常設・包括的な戦略拠点の形成★ 世界トップクラスの外国人研究者の受入れ

【教育】

▶グローバル・ハブ・キャンパスの実現

これまで	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の留学をしても4年間で卒業できる「KIBER Program」(経営学部)の開設／海外13大学とのダブルディグリープログラムの開設★
これから	<ul style="list-style-type: none"> 経営エグゼクティブドクターコースの開設(リ・ディグリアグラム)など BM5年一貫経済学国際教育プログラム等の開設等によるグローバル人材養成を目指した教育の展開(H25要求) 学部秋季入学制度の検討

▶教育の内部質保証システムの確立と質の向上

これまで	<ul style="list-style-type: none"> 教育研究の高度化等のための人文・人間科学系研究科及び自然科学系研究科の改組 計算科学人材養成を行うシステム情報学研究科の新設★ 全学評価・FD委員会の新設／ESDコースの構築
これから	<ul style="list-style-type: none"> 社会のニーズに対応した教育研究体制の見直し(海事科学部の改組及び人間発達環境学研究科の専攻改組(H25要求))★ 入学定員の在り方を含めたリサーチ・ユニバーシティに相応しい教育研究指導體制の構築★

【社会貢献】

▶防災・減災研究教育の拠点としての社会貢献

これまで	<ul style="list-style-type: none"> 阪神・淡路大震災の経験を生かした社会貢献(都市安全研究センターの設置、活動)／東日本大震災からの復興に向けた神戸大学からの提言(第一次)の作成／災害科学分野における東北大学との包括協定の締結
これから	<ul style="list-style-type: none"> 学外とのネットワーク形成による世界的防災・減災研究拠点づくりによる防災・減災への貢献(東北大学との協働事業)★
これまで	<ul style="list-style-type: none"> 附属病院における先進医療の研究開発、地域医療への貢献 附属学校における教育革新
これから	<ul style="list-style-type: none"> 附属病院における先進医療、特に低侵襲医療の展開と優れた医療人養成★ 附属学校再編計画の着実な推進、附属小学校35人学級編制の導入 正課外教育による学生の地域貢献活動の支援、学生のボランティア活動の支援

▶卓越した地域社会への貢献

【大学経営】

▶卓越した大学経営の実現

これまで	<ul style="list-style-type: none"> 附属病院の経営改善 女性教員採用比率20%を目指す男女共同参画の推進 神戸大学情報データベース(KUID)の開発、運用
これから	<ul style="list-style-type: none"> 病院経営改善の体験を活かした国立大学病院の経営改善への貢献 大学運営の高度化を実現するIR機能強化のための情報戦略推進センター(仮称)の設置★ 主学コスト削減プロジェクト(削減目標額2億円)や輸入件費改革に对应した教職員定員・給与の在り方の検討による大学運営に係るコスト見直し 大学経営を支えるスタッフの育成

▶ステークホルダーへの情報発信

これまで	<ul style="list-style-type: none"> 東京オフィスを活用した卒業生等とのネットワーク強化
これから	<ul style="list-style-type: none"> 広報からパブリックリレーションズへの転換を目指した広報体制の強化 『国民への約束【神戸大学の「これまで」と「これから」】』 『神戸大学データ資料集～データが語る神戸大学の今の姿～』の対外的発信

注) ★印は他大学等との連携や、組織見直しに関連するものである。

4. まとめ～評価からIRへの転換(5/5)～

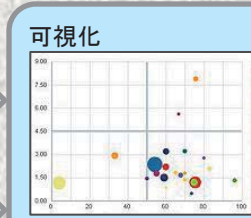
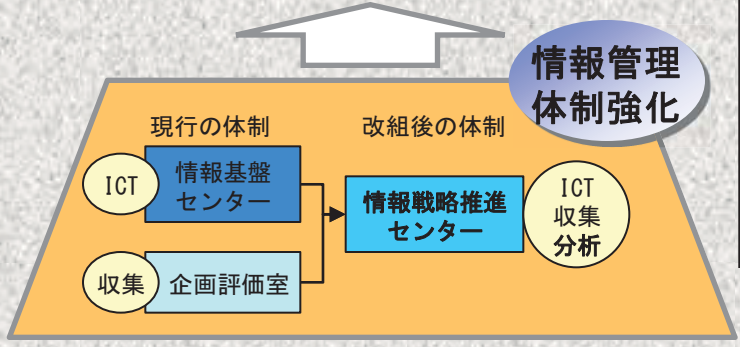
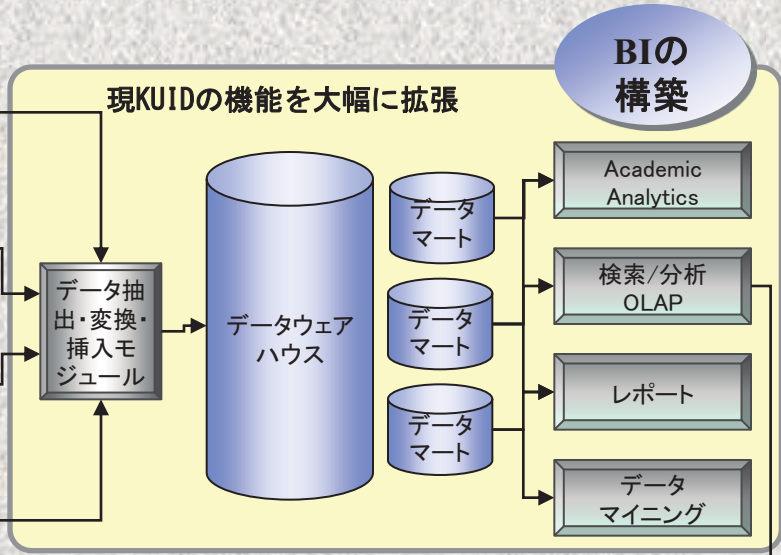
大学経営
の高度化



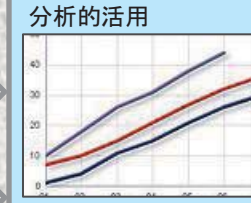
IR機能
の強化

意思決定
支援

- 学内業務システム
- 教務情報システム
 - 人事システム
 - 財務会計システム
 - 研究者DB



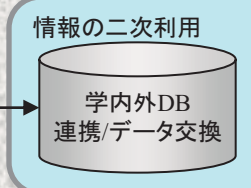
学生の成績分布、単位取得状況、各種アンケートの結果等をリアルタイムで可視化し、教育改善に活用することで学習成果を向上



目的に応じた分析及びレポート機能を実装し、業務の進捗管理、報告書作成作業の簡略化などを通じて、業務の効率化に寄与



主要業績評価指標(KPI)をダッシュボードとして随時、閲覧可能にし、データに基づく執行部の意思決定を支援



大学ポートレート(仮称)、ReaD&Researchmap等の学外DB、研究者紹介システム、機関リポジトリ等の学内DBとの連携/データ交換に有効活用

- J.L. Saupe, “The Function of Institutional Research” 2nd Edition, Association for Institutional Research, 1990.
- J. W. Volkwein, “The Four Faces of Institutional Research”, *New Directions for Institutional Research*, no. 104, Winter 1999, pp. 9–19.
- R.D. Howard, *Institutional Research: Decision Support in Higher Education*, Association for Institutional Research, 2001.
- J. W. Volkwein, “The Foundations and Evolution of Institutional Research”, *New Directions for Higher Education*, no. 141, Spring 2008, pp. 5–20, doi: 10.1002/he.289.
- 小湊卓夫・中井俊樹(2007), 「国立大学法人におけるインスティテューショナル・リサーチ組織の特質と課題」, 大学評価研究第5号, 大学評価・学位授与機構, 19-34ページ.
- 柳浦猛(2009), 「アメリカのInstitutional Research IRとはなにか?」, 国立大学財務・経営センター研究報告(国立大学法人における授業料と基礎的教育研究経費に関する研究第12章), 220-253.
- 小林雅之・劉文君・片山英治(2011), 「大学ベンチマークの実証的研究」ものぐらふ10, 東京大学・大学総合教育研究センター.
- 山田礼子(2011)「米国におけるIR概念と活動から見る日本型教学IRの可能性」, 大学評価研究第10号, 大学基準協会, 9-19ページ.
- 柳浦猛(2011), 「「アメリカのIRの本質」?」, IDE現代の高等教育No.528, IDE大学協会, 12-17ページ.
- 本田寛輔(2011), 「アメリカのIRと日本への示唆」, IDE現代の高等教育No.528, IDE大学協会, 17-25ページ.
- 大学評価・学位授与機構IR研究会編(2012), 「IR実践ハンドブック 大学の意思決定支援」, 玉川大学出版部.

ご清聴、ありがとうございました。



*Toward Global Excellence
in Research and Education*

報告に対するご意見・ご質問等ございましたら、以下のメールアドレスまでお願いいたします。

asano@people.kobe-u.ac.jp